



## 信用情報

企業リスト

平成 23 年 11 月 30 日

会社名	所在地	業種	年商(億円)	記号
(株)○×建設工業	長野県長野市○○町 2-2-2	総合建設	26.4	A
○工業(株)	長野県諏訪市××25-44	土木工事	3.1	C
(株)長野○○ハウス	長野県飯田市○○2345	戸建建築	11.8	B
○○内装(株)	長野県北佐久郡軽井沢町○○ 123-2	内装工事	3.3	A
(有)○○鉄工	長野県松本市○○町 12-1	鉄骨工事	4.1	A

当資料や掲載内容はKENSINに属します。第三者への漏洩の他、複製・改変・転用等することを禁止します。  
当資料や掲載内容は細心の注意を払って情報を掲載しておりますが、妥当性や正確性について保証するものではなく、一切の責任を負いかねます。



## 信用情報

平成 23 年 11 月 30 日

(株)××工務店	
[所在地]長野市長池東 4-〇-×	[登記上]同上
[設 立]昭和 53 年 12 月	[資本金]5,000 万円
[年 商]36 億 5,000 万円	[代表者]山本 ×太郎ほか 1 名
「近況」 今期(24 年 3 月期)の業績に対して関係先から問い合わせが増加している。 当社は、〇〇興業の関連会社として戸建分譲を手掛け、平成 19 年 3 月期には売上高 50 億円を計上するまでに成長。しかし、一方で、不良在庫が膨らんだ他、〇〇興業への貸付金が重荷となり、19 年 3 月期末時点で有利子負債 60 億円と過大な状態となった。また、19 年 8 月には〇〇商事が破綻し、同社に対しての貸付金(15 億円)が不良化。20 年 3 月期に不良資産を処理し 20 億円の債務超過と財務面は逼迫。銀行と再建計画(15カ年)を策定しDDS(20 億円)を取り付けた事で急場を凌いだ。 その後は、不良在庫の処理を進め、21 年 3 月期には売上高 29 億円にとどまったが、22 年 3 月期以降は関係筋から優先的に好条件の分譲地を獲得する事が出来、売上高は 35 億円へ増収。利益面では経常利益 1 億円、最終利益 9,000 万円を計上。23 年 3 月期も好調を維持し売上高は 39 億円。経常利益 1 億 2,000 万円、最終利益 1 億円となった。 こうした中で、24 年 3 月期の業績に関心が寄せられている。要因は、東日本大震災の影響で完工にズレが生じた他、放射能を懸念した一般顧客の契約が 15 件頓挫した事。会社側は、契約破棄により売上高は当初予定していた 40 億円を下回るものの、利益重視の販売に切り替えている事で、収益性は前期並みを維持出来ると強気な姿勢を示す。また、銀行からは、DDS(返済猶予分 20 億円)の返済計画についての話が出始めていると聞かれる事からも、今後も業績回復に一層の努力が必要と言える。	

当資料や掲載内容はKENSINIに属します。第三者への漏洩の他、複製・改変・転用等を行うことを禁止します。  
当資料や掲載内容は細心の注意を払って情報を掲載しておりますが、妥当性や正確性について保証するものではなく、一切の責任を負いかねます。